

大洲



青空給食 おいしいな

がんばる大洲っ子

今月の題字作成者

喜多小学校 5年（現：喜多小学校 6年）

岡 沙 希 さん



私は今、鼓笛隊の指揮者の練習を頑張っています。中学生になったら、吹奏楽部に入って、演奏者としていろいろな楽器に挑戦したいです。

私は獣医をしているお父さんを尊敬しています。話すことのできない動物を診察して、すぐに正しい処置ができるのは、とてもすごいと思います。また、お父さんは何でも知っていて、よく勉強も教えてくれます。

私の好きな言葉は「やれどできる」です。努力したら必ず良いことがおきると信じています。

私はお父さんの影響で、医療や看護の仕事に興味を持つようになりました。赤ちゃんが好きなので、今の夢は助産師になることです。そのためには、看護師資格も必要なので、勉強することがたくさんあります。きっと「やればできる」ので、夢をかなえて、地元で働きたいです。

6月の納税など

納期限は6月30日(木)です。

税 別	6月	7月	8月	9月
市 県 民 税	1期		2期	
固 定 資 産 税		2期		3期
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税		1期	2期	3期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人口	45,154人 (-9)	件数 63件(65件)
男	21,562人 (-9)	死者 1人(2人)
女	23,592人 (-18)	負傷者 85人(80人)
世帯数	20,180世帯(43)	

(2016年4月末現在)

CONTENTS 目次

2ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3ページ～	(特集)竹林に新たな光
8ページ～	おおずニュース
12ページ～	シリーズ
15ページ～	おしらせ
25ページ～	図書館・保健センター・ 心と体の健康ガイド
28ページ	がんばるひと (稲積癒しの里山)

今月の表紙



ポコペン横丁で4月29日(金)、昭和の日恒例の青空小学校が開催されました。

年に一度だけ開校する保湖(べんこ)小学校では、朝の会をはじめ、ラジオ体操や理科の授業、昔ながらの給食の時間などがありました。集まった62人の児童たちは、晴れ渡る青空の下、笑顔で授業を楽しみました。

(特集)

竹林に新たな光

—ほし乾タケノコ生産—



新たな産業の創出へ

乾タケノコは、2メートルほどに伸びたモウソウ竹のタケノコの皮を剥ぎ、ゆでて乾燥させたものです。その多くはメシマの原料として使われ、近年日本で流通しているものは、ほとんどが輸入品です。

食材の国産切り替え方針を決めた国内大手飲食店メーカーから、昨年1月、愛媛県森林組合連合会に対して乾タケノコの生産要請がありました。現在、県全体で生産に取り組んでいます。

乾タケノコ生産は、農林家の短期収入源として、また放置竹林への対策としても、今、大きな注目を集めています。



- ① 適度に伸びたタケノコ
- ② 皮を剥ぎ、カットしたもの
- ③ 湯がいて乾燥した後の完成品



全国に先駆けた生産地へ

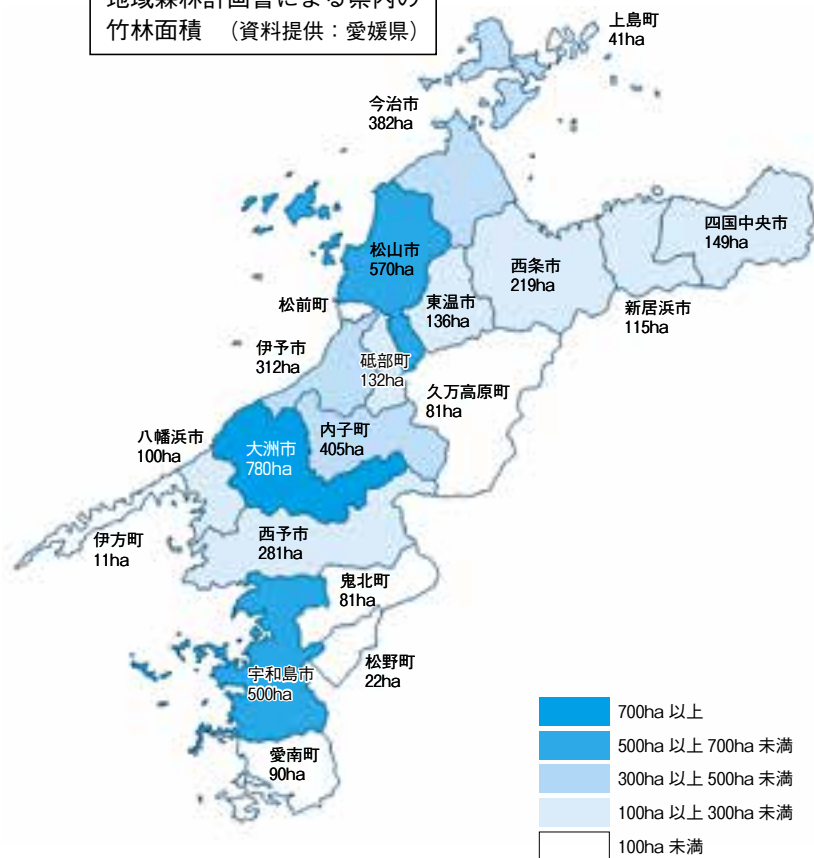
メーカーから生産要請があった乾タケノコは、県全体で年間18トという量でした。そこで平成29年度までに必要量を生産するため、段階的な計画が立てられました。

計画初年度の平成27年度は、目標5トに対して、県全体で約2トと半分足らずの生産量でした。そのうちの約1トは大洲市が生産しましたが、目標には及びませんでした。今年度は県で10ト、その半分の5トが大洲市の生産目標とさ

れています。

大洲市は、県内一の竹林面積を保有していて、乾タケノコ生産に必要なモウソウ竹が豊富にあり、生産環境に恵まれています。また、乾タケノコを生産するためには乾燥機が必要となります。全国有数の乾シイタケの産地である大洲市には、乾燥機を所有している生産者が多いため、乾タケノコ加工のための基盤も整っているといえます。

地域森林計画書による県内の竹林面積 (資料提供: 愛媛県)



期待される効果

近年、竹材の利用は減少の一途にあります。それに伴い増加した放置竹林は、人工林への侵入や、有害鳥獣のすみかとなるなど、中山間地域の課題の一つとなっていました。今回の乾タケノコ生産への取り組みにより、次のことが期待されています。

- ▽竹林整備による森林環境の改善
- ▽生食用または加工用タケノコ生産量の拡大
- ▽乾シイタケや野菜など、ほかの産物の取引拡大への可能性
- ▽地域の雇用や新たな産業の創出



目標達成に向けて

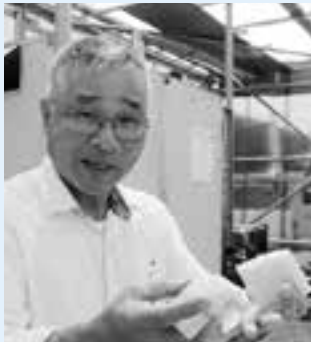
一人でも多くの人に乾タケノコ生産に関わってもらおうことで、生産量の増大につなげようと、愛媛県森林組合連合会や大洲市森林組合を中心として、さまざまな取り組みが行われています。

加工に必要な鍋などの整備を行うほか、作業道開設および獣害対策補助などの説明会や、生産に必要な知識や技術を習得するための研修会の開催など、生産拡大に向けて事業が展開されています。



4月17日(日)には、新谷の椎茸選別場で乾タケノコの作り方講習会が開催され、生産者や関係者合わせて約150人が参加しました。

講習会では皮剥ぎやカットの方法、湯せん、乾燥の要領のほか、買い取り価格の説明などが行われ、参加者のみなさんは熱心に聞き入っていました。また、乾タケノコの完成品を持ち寄り、出来栄えや買い取りの可否などについて相談する生産者も見られました。



愛媛県森林組合連合会
参与

松本 やすし 泰 さん

タケノコは、竹林をしっかりと整備すれば、確実に採ることができます。また、初期投資も少なく済み、さらに現在は買い取り先も決まっているので、良い物を作ればその分買ってもらえます。乾タケノコは、生産者にとって「計算できる」産物といえます。

大洲市においても、乾タケノコに関する説明会を重ねてきました。参加状況を見ても、関心の高さがうかがえ、期待しているところです。地域の竹林対策にこれほど有効な手段はないので、行政とも協力して、しっかり後押ししていきたいと思っています。



大洲市森林組合
指導部 主事

竹岡 じゅり 寿理 さん

乾タケノコに関する問い合わせが増えていて、生産者の関心が高まっていると感じています。個人で生産するだけでなく、グループで取り組んでいる人もいて、生産者同士の新しいつながりも見られます。

全国には、広い竹林を持つ地域がたくさんあります。そのなかで愛媛県を選んでもらっているので、要請を受けた生産量は達成しなければなりません。また、ニーズに応え、産地として信頼を得ることができれば、今後ほかの作物の生産受注につながり、地域がさらに活性化できるのではないか、と期待しています。



求められているものにしっかりと応えたい

20年ほど前から、奥さんの千代^{ちよ}香さんとともに乾タケノコの生産に取り組んでいる上川さんは、講習会で説明を任されるなど、地域では第一人者とされています。

飲食店メーカーが愛媛産乾タケノコに注目し、生産者に会いたいとの要望で面会したのが上川さんでした。誠実で地道な取り組みが、乾タケノコ生産を請け負うきっかけになったといえます。

「乾タケノコの最盛期は2週間程度。シイタケが終わり、田植えが始まる前までの間にできるので、効率がいい。物を売るには営業が必要だが、今はいろいろな後押しがあるので、これほど安心して作業ができることはない」と上川さんは話します。

昨年度は500^キを生産した上川さんは「自分の土地だけでは無理なので、知人に声をかけ、放置


竹林を借りている。厄介者の竹林整備にもつながるので、知人からは逆に感謝されるほど」と、多方面に効果のある乾タケノコ生産の可能性に期待されています。

今では県内のみならず、鹿児島県からも視察があるという上川さんは「少なくとも要請されているものは商品基準をクリアして、信頼を損なわない仕事をしたい。そうしないと、せっかく期待されている愛媛から離れていってしまふ。私自身もまだまだ勉強不足なので、みんなの力で認められるものを作り上げ、目標を達成したい」と、力強く語られました。

新たな大洲ブランドへ

かつて、竹は建築や日用品など、身近な資材として生活に利用されてきました。しかし、安価な輸入品の増加や、プラスチックなどの新たな資材の出現により、需要は激減していきました。竹は成長力が強いいため、放置された竹林が、民家への侵入被害の原因となるなど、その対策が課題とされてきました。

今回の乾タケノコ生産が軌道に乗れば、竹林の整備による地域環境の改善をはじめ、雇用の増加や



「いつかヒットするのでは、という感覚はあった。
厄介者がお金になる、おもしろい時代になった」

うえがわ かつとし
上川 勝利さん (河辺町三嶋)

地域の活性化が見込めます。生産を推し進める事業者にとっても、生産者にとっても、注目を集めている今が踏ん張り時といえます。竹林への新たな光が、大洲ブランド創出のきっかけとなるかもしれません。

乾タケノコ生産における県および市の補助について

愛媛県補助事業

【乾たけのこ生産基盤整備事業】

- ▽生産計画の作成
- ▽基盤整備
- ▽生産・加工機材の整備

大洲市補助事業

【大洲市竹林再生・利用促進緊急支援事業】

- ▽竹林整備
- ▽作業道開設
- ▽獣害対策
- ▽資機材整備

詳しい内容については左記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

農林水産課林業振興係

☎ 24 1727

大洲市森林組合

☎ 25 4030